『汐製菓会社の新作 110 せんべい 5』

第一幕：奇想天外な始まり

シーン1：社長室での爆弾発言

（舞台は汐製菓の本社ビルにある社長室。壁には歴代の菓子パッケージがずらりと並んでいる。中央の大きなデスクの前に、汐がソファに座り、何かをじっと考えている。その表情は深刻そうだが、どこか楽しげでもある。塩田が書類を抱えて入室する。）

塩田

「社長、お待たせしました。本日の会議資料をお持ちしました。」

（塩田が書類を机に置くと、汐は顔を上げる。しかし、資料には目もくれず、真剣な顔で塩田を見つめる。）

汐

「塩田君。」

塩田

「はい？」

汐

「煎餅、好きか？」

（突然の問いに塩田は固まる。）

塩田

「……え？あ、はい。好きですけど……どうして急に？」

汐

「よし！ならば話が早い。**次の新作は、煎餅にチョコを塗ったものに決定だ！**」

（汐は勢いよく立ち上がる。塩田は呆然とする。）

塩田

「えっ！？……せ、煎餅に、チョコを塗る……ですか？」

汐

「そうだ！しかも、ただのチョコじゃない。ビター だ。甘さ控えめで大人の味にする。」

塩田

「ちょ、ちょっと待ってください。煎餅にチョコ……それって味のバランスが……いや、そもそも誰がそんなものを食べたいと？」

汐

（腕を組み、自信満々に）

「誰もが食べたいと思うさ。だって、これは革命だ！」

塩田

「革命……ですか？」

汐

「そうだ！これまで煎餅と言えば醤油味、塩味、たまに海苔巻きくらいだった。でも、そこにチョコを加えたらどうなる？」

塩田

「どうなる……とおっしゃられましても……」

汐

（身振りを交えながら）

「甘さと塩気の究極の調和だ！噛むたびにサクサクとした煎餅の歯ごたえ。そして、口の中で広がるビターチョコの香り。聞いただけでワクワクしてこないか？」

（塩田は頭を抱えながら、困惑した表情を浮かべる。）

塩田

「いや、あの……それ、ワクワクするのは社長だけでは？」

汐

「いいや、世界中がワクワクする！まずは試作だ。塩田君、藻塩君に伝えてくれ。**最高のチョコ煎餅を作るんだ！**」

（塩田は渋々頷き、部屋を出ていく。汐は大きく息を吸い込み、天井を見上げながら呟く。）

汐

「ふふふ……これが汐製菓の新たな伝説の始まりだ。」

（薄暗い社長室に光が差し込み、汐の表情が輝く。）

シーン2：試作室での悪戦苦闘

（場所は社内の試作室。藻塩がエプロン姿で調理台に向かい、あれこれと試行錯誤を繰り返している。塩田が様子を見に来る。）

塩田

「藻塩さん、どうですか？社長の無茶な指令に進展は？」

藻塩

（疲れた顔で）

「どうもこうもないですよ。チョコは溶けるし、煎餅は湿気るし、こんなの成立するわけない！」

塩田

「ですよねぇ……」

藻塩

（試作を見せながら）

「一応、いくつか試してみたんですけど、これが海苔巻きにチョコを塗ったもの。」

塩田

（眉をひそめながら）

「なんか……見た目がひどいですね。」

藻塩

「で、こっちがゴマ煎餅にチョコをかけたもの。」

塩田

「それはもう、煎餅じゃなくてなんだか不気味なお菓子に見えますけど。」

藻塩

「最後に、これがチョコを外側にだけ塗ったもの。少しはマシかもしれませんが……」

（塩田が恐る恐る一口かじる。）

塩田

「……あ、意外といけますね。サクサク感が残っていて、チョコとの相性も悪くない。」

藻塩

「本当ですか？じゃあ、これを社長に見せてみますか？」

（そこに汐が颯爽と現れる。）

汐

「見せるまでもない！食わせろ！」

（藻塩が急いで試作品を差し出す。汐が一口かじる。）

汐

（目を輝かせて）

「これだ！これが世界を変えるチョコ煎餅だ！」

（塩田と藻塩が顔を見合わせ、ため息をつく。）

第二幕：試食会での波乱

シーン1：国内試食会

（場所は汐製菓の本社会議室。簡素なテーブルに、チョコ煎餅の試作品が皿に盛られている。社員や特別招待された一般モニターが座

り、少し緊張した雰囲気だ。汐が会場の前に立ち、意気揚々と挨拶する。）

汐

「皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます！汐製菓が誇る新商品、＊＊『外にビターチョコを塗ったサクサク煎餅』＊＊の試食会を開始します！」

（拍手が起きるが、どこかぎこちない。塩田が端で心配そうな顔をしている。）

塩田

（小声で）

「社長、これ本当に大丈夫なんでしょうか……？」

汐

（自信満々で）

「大丈夫に決まってるだろう。さぁ、皆、どんどん食べてくれ！」

（試食が始まる。まず手を伸ばしたのはモニターの一人、**佐藤よね（70代女性、煎餅マニア）**。）

佐藤よね

（じっとチョコ煎餅を見つめて）

「煎餅にチョコとは……面白いことを考えたもんだねぇ。」

（ゆっくりと一口かじる。会場が静まり返る中、佐藤が顔をしかめる。）

佐藤よね

「こりゃあ、煎餅が泣いてるよ！」

（会場から笑い声が起きる。汐がすかさず前に出る。）

汐

「どう泣いてるんですか？悲しみの涙？それとも感動の涙？」

佐藤よね

「どっちかっつーと、驚きの涙だねぇ。けど、噛んでるうちに、この塩気とチョコの苦味が……ちょっとクセになるかも。」

塩田

（驚いて）

「クセになる……？」

（次に、若い男性モニターの**山田拓也（20代、甘党）**が口を開く。）

山田拓也

「僕、甘いものが好きだから期待してたんですけど……これ、全然甘くないですね。」

汐

「その通り！ビターチョコだ。甘さに頼らない味が大人を虜にするんだよ！」

山田拓也

（もう一口食べて）

「うーん……確かに、後味が意外といいかも。でも、友達にこれ勧めたら変な顔されそう。」

（会場がまた笑いに包まれる。次に、若い女性モニターの**綾野さや（30代、健康志向のOL）**が発言する。）

綾野さや

「私、ダイエット中なんですけど……これってカロリーどのくらいですか？」

汐

（即答で）

「一枚約50キロカロリー！軽いおやつにピッタリだ！」

綾野さや

（感心して）

「それはいいかも。食べてみると意外と満足感ありますね。普通のチョコ菓子よりいいかも。」

汐

（大きく頷いて）

「そうだろう！煎餅のヘルシーさとチョコの贅沢感を一緒に味わえる。これぞ一石二鳥！」

（徐々に会場の雰囲気が和らぎ、試食が盛り上がり始める。しかし、その時、一人の社員が手を挙げる。）

社員A

「社長、質問です。この商品名は決まっているんですか？」

（汐が胸を張って答える。）

汐

「もちろん！商品名は――**『汐製菓チョコせんべい・110』**だ！」

（会場が一瞬静まり、爆笑が起きる。）

塩田

（慌てて）

「社長、それじゃ何だかパトカーみたいですよ！」

汐

「そうか？インパクトあるじゃないか！」

（塩田が頭を抱えながら溜息をつく。場の空気はさらに和やかになり、試食会は成功裏に終わる。）

シーン2：改良と次なる挑戦の計画

（試食会の結果を元に、改良案を検討する会議室。塩田と藻塩が意見を交わしている。）

藻塩

「予想以上に好意的な意見が多かったですね。でも、まだ改善の余地はありそうです。」

塩田

「たしかに。特に『食感をもっとカリッと』とか、『ビターチョコの苦味を少し抑えてほしい』という声が多かったですね。」

（汐が腕を組んで考え込む。）

汐

「……カリッと、ね。それなら煎餅の厚さを少し薄くしてみるか。ビターチョコの調整は藻塩君、君に任せる。」

藻塩

「了解しました。でも、改良してからまた試食会をするんですか？」

汐

（ニヤリと笑いながら）

「いや、次は直接、**海外市場に打って出る**ぞ！」

（塩田と藻塩が目を見合わせ、驚きの表情を浮かべる。）

塩田

「か、海外……ですか？」

汐

「そうだ。日本の小さな菓子会社が世界に革命を起こす。面白いと思わないか？」

（塩田が小さく溜息をつきながらも微笑む。）

塩田

「……もう、社長にはついていくしかありませんね。」

（場面転換。次の舞台は海外の展示会へ――。）

第三幕：国際市場での挑戦

シーン二：海外展示会での不評

（舞台はフランス・パリの国際食品展示会の会場。華やかな装飾と高級感漂う雰囲気の中、汐製菓のブースはやや小ぶりだが、賑やかなポスターと煎餅の試食品が目を引いている。汐は胸を張り、塩田と藻塩は少し緊張気味。）

汐

「さぁ、ここからだぞ！我々の煎餅が世界中に知れ渡る日が来た！」

塩田

「いやいや、まだ一人も試食してませんよ……落ち着いてください。」

藻塩

（小声で）

「向こうの人、煎餅をチョコで包むなんて思いもよらないでしょうしね……。」

（最初に現れたのは、フランスの食品評論家、**ジャン＝ピエール**。スーツ姿で手帳を持ちながらブースに近づく。汐が早速声をかける。）

汐

「いらっしゃい！試食してみませんか？これは日本が誇る新しいお菓子です！」

（ジャン＝ピエールは疑い深そうな目で試食品を手に取る。チョコ煎餅を見つめ、眉をひそめる。）

ジャン＝ピエール

「これは……チョコレート？いや、煎餅？どちらなのですか？」

汐

「両方です！ビターチョコを外側に塗り、サクサクの煎餅を包み込みました。**和と洋の奇跡の融合**です！」

（ジャン＝ピエールが一口かじる。すぐに表情が険しくなる。）

ジャン＝ピエール

「おお……これは非常に独特ですね……しかし、この塩味と苦味の組み合わせは少々奇妙に思えます。」

汐

「奇妙！？それは挑戦的と言っているのだろう？」

ジャン＝ピエール

（微妙な表情で）

「挑戦的と言うには、やや……。」

（次に現れたのは、アメリカの若いバイヤー、**ジェイソン**。カジュアルな服装で、軽い感じの男性。）

ジェイソン

「Yo！これ、チョコとスナックのハイブリッド？面白そうだね！」

（ジェイソンが軽いノリで一口食べる。しかし、すぐに渋い顔になる。）

ジェイソン

「Hmm…これ、どっちつかずじゃない？スイーツとしても、スナックとしても中途半端かも。」

（汐が少しむっとする。）

汐

「中途半端だと！？いいか、これは**新たなカテゴリ**なんだ。スイーツでもスナックでもない、第三の道！」

ジェイソン

「Oh…新しいことに挑戦してるのはわかるけど、アメリカの子供たちはこれに飛びつくかなぁ？」

（次に現れたのは、中国の食品チェーンオーナー、リー。慎重な態度で煎餅を手に取る。）

リー

「日本のお菓子は非常に品質が高いことで知られていますが……これは、少し違う方向性ですね。」

汐

「そうだろう！全く新しい方向性なんだ！」

リー

（かじりながら）

「……ふむ。確かにユニークですが、これは万人受けしないかもしれません。」

（3人の批評を受けて、塩田が顔をしかめる。）

塩田

「社長……これ、やっぱり無理なのでは……？」

（汐が大きく息を吸い込み、会場全体に響き渡る声で叫ぶ。）

汐

「無理だと！？そんなことはない！」

（汐がブースの中央に立ち、熱弁を始める。）

シーン2：熱弁の逆転劇

汐

「皆さん！これはただの煎餅にチョコを塗ったものではありません！これは、日本のお菓子が新たに生み出した革命的な商品です！」

（会場がざわつく。ジャン＝ピエール、ジェイソン、リーも足を止めて汐を見つめる。）

汐

「煎餅は日本の伝統文化の象徴だ。そしてチョコレートは世界中の人々に愛される味。その

２つを融合させることで、**全く新しいお菓子の未来を切り開く**んです！」

ジャン＝ピエール

「未来……ですか？」

汐

「そうだ！皆さん、こう考えてみてください。この煎餅は単なるスナックではない。**新たなチョコ菓子として歴史に残る**、そんな可能性を秘めているんです！」

（会場がさらにざわめく。ジェイソンが興味を示す。）

ジェイソン

「歴史に残るチョコ菓子か……その発想、嫌いじゃないよ。」

（ジャン＝ピエールがもう一度煎餅をかじる。）

ジャン＝ピエール

「確かに……この塩味と苦味のバランス、慣れるとクセになるかもしれません。」

リー

「私の顧客に紹介してみても面白いかもしれませんね。」

（汐が勝ち誇ったように笑う。）

汐

「そうだろう！さぁ、これを日本から世界へ届けようじゃないか！」

（拍手が起き、ブースに人が集まり始める。塩田が感動の表情を浮かべる。）

塩田

「……社長、本当にやってのけましたね。」

第四幕：成功と次への布石

シーン二：展示会の後、成功の兆し

（展示会後。汐製菓のブース周辺には人だかりができ、次々に試食を求めるバイヤーたちがやってくる。汐、塩田、藻塩がブースの片隅でその様子を見守っている。）

塩田

（驚きながら）

「社長……本当に、これだけの反響があるなんて……！」

藻塩

「最初は半信半疑だったけど、意外と……いや、すごいですね。」

汐

（にんまりと笑いながら）

「だろう？だから言っただろう！**新たなチョコ菓子の歴史が生まれる瞬間**だって！」

（近くで、アメリカの大手スイーツメーカーの**エミリー**が興味深そうに煎餅を試食している。エミリーは最初の一口で驚いた表情を見せ、すぐにスタッフに話しかける。）

エミリー

「これ、すごく面白い！日本のお菓子って、こんなに革新的な発想があるのね。」

（汐がすかさず駆け寄る。）

汐

「ありがとう！私たちは煎餅という伝統的なお菓子に、世界で愛されるチョコレートを組み合わせたんです。新しいお菓子の未来がここにあります！」

エミリー

「確かに、これはアメリカ市場にぴったりかもしれません。今、スナックとスイーツの融合がトレンドですから。」

（塩田が感心しながら近づく。）

塩田

「えっと……あの、もしかして、契約の話を進めるってことですか？」

エミリー

（にっこり笑って）

「もちろん。商談しましょう。」

（塩田と藻塩が顔を見合わせて驚く。その様子を見て、汐が得意げに笑う。）

汐

「さあ、ここからが本番だ！世界中に私たちのチョコ煎餅を届けよう！」

シーン2：国内での大ヒット

（汐製菓の本社。テレビのニュース番組がチョコ煎餅を特集している。汐と塩田、藻塩が社内モニターでその様子を見守っている。）

ニュースキャスター

「汐製菓が新たに発表した『外にビターチョコを塗ったサクサク煎餅』。そのユニークな発想と新しい味が、日本国内でも大きな注目を集めています。消費者からは『新しいチョコ菓子の革命だ』と高い評価を受けています。」

（モニターの前で塩田が感動している。）

塩田

「すごい……ついに日本国内でもこんなに反響が出てきましたね。」

藻塩

「テレビやSNSでも大騒ぎですね。国内のスーパーやコンビニにも並び始めましたし、注文が殺到してるみたいです。」

汐

（うれしそうに肩をすくめて）

「ほらな、言っただろう！まだまだ道のりは長いけど、これからが本番だ。」

（電話が鳴る。汐が受話器を取ると、声が響く。）

汐

「はい、汐製菓です。」

（相手は、国内大手流通業者の担当者。話が進み、汐の顔がさらに明るくなる。）

汐

「そうですか！それなら、次の展開も決まりですね！ありがとうございます。」

（電話を切ると、塩田と藻塩が駆け寄る。）

塩田

「社長、何が決まったんですか？」

汐

（ニヤリと笑いながら）

「なんと、大手コンビニチェーンとの契約が成立したんだよ！」

藻塩

「すごい……これからますます広がりますね。」

汐

「だろう？これが新たなチョコ菓子の時代だ！」

シーン3：次の挑戦への決意

（汐製菓のオフィスで会議が行われている。メンバー全員が集まり、新たな戦略を練っている。）

汐

「さぁ、ここまで来たら次のステップに進もう。

国内の成功に満足していてはいけない。海外市場での展開をさらに加速させるために、次なる新商品を開発するぞ！」

（塩田と藻塩が慎重な表情を浮かべる。）

塩田

「社長、次の商品って……どんなアイデアですか？」

汐

（自信満々に）

「次はもっと**突き抜けた**アイデアだ。**チョコ煎餅**を超える、次世代の和スイーツを作り出す！」

藻塩

「……また新たな革命を狙っているんですね。」

（汐が机に手をついて立ち上がる。）

汐

「もちろんだ！世界中をアッと言わせるような、**本当にびっくりするような**お菓子を生み出すんだ。」

（社員たちがその熱意に引き込まれていく。塩田も少し興奮しながら頷く。）

塩田

「やるからには、全力でサポートします！」

（汐が満足げに笑う。）

汐

「その意気だ！新しい歴史を刻むために、また一歩踏み出すぞ！」

（社員たちが熱気を帯びた様子で次の挑戦に向かって気持ちを高める。汐は机の前に立ち、目を輝かせながら新たな構想に思いを馳せる。）

汐

（心の中で）

「この道の先には、きっと更なる面白いことが待っているんだ。」

最終幕：次への冒険とエピローグ

シーン1：次なる一歩

（汐製菓の本社の会議室。社員たちが集まり、今後の展開を話し合っている。汐は熱心に次のアイデアを紙に書きながら話している。）

汐

「チョコ煎餅の成功を足がかりに、次は**“煎餅パフェ”**を作るんだ！」

（社員たちが驚いた表情で見つめる。）

塩田

「え、煎餅とパフェを組み合わせるんですか？」

藻塩

「それ、どんな味になるんですか？」

汐

「それが面白いところだ！**煎餅のサクサク感**と、**パフェのクリーミーさ**を合わせるんだ！」

塩田

（眉をひそめて）

「でも、また新しい発想ですよね…。うまくいくかは、分かりませんよ。」

汐

「うまくいかなくても、挑戦しない限り、前に進まない！だろ？」

（社員たちがそれぞれの反応を見せる中、汐が立ち上がり、声を大にして語る。）

汐

「我々の目指すところは、**世界を驚かせること**だ。これからも新しいアイデアをどんどん試して、進化し続けるぞ！」

（社員たちが次々と賛同し、やる気を見せ始める。）

藻塩

「わかりました、全力でサポートします！」

塩田

「私も協力します、社長。」

（汐がにっこり笑って言う。）

汐

「よし！それじゃ、早速動き出すぞ！」

シーン2：新たな挑戦に向けて

（汐製菓の工場。新商品の試作が進んでおり、スタッフたちが忙しく動き回っている。塩田が新しい製品のテストを確認し、藻塩がサポートしている。）

塩田

「社長、煎餅パフェの試作が少し難航していますね…。クリームの部分がうまく固まらないんです。」

藻塩

「チョコ煎餅の時もそうでしたが、やっぱり新しいアイデアは大変ですね。」

（汐がキラキラした目で二人を見る。）

汐

「だからこそ面白いんだよ！完璧じゃないからこそ、**挑戦の価値**があるんだ！」

塩田

（少し不安げに）

「でも、これがうまくいかなかったら……。」

汐

「失敗を恐れるな！失敗こそ、**成功の母**だ！」

（汐が笑いながら手を広げる。塩田と藻塩はその笑顔に励まされる。）

藻塩

「社長、いつも元気ですね。私たちもがんばりましょう！」

シーン3：新たな市場へ

（汐製菓が海外市場に進出するための最初のステップとして、アメリカの食品展示会に出展。汐と塩田、藻塩がブースの準備をしている。）

汐

「さあ、これが勝負の時だ！アメリカの消費者がどんな反応をするか、楽しみだね！」

塩田

「社長、最初の反応がどうなるか心配です。」

汐

「心配しすぎだよ、塩田。**冒険にはリスクがつきもの**だ。それを乗り越えた時に本当の喜びが待っているんだ。」

（展示会が始まり、アメリカのバイヤーたちが次々とブースに訪れる。汐の自信に満ちた態度が、周囲を引き寄せる。）

アメリカのバイヤー

「おお、これは面白い。煎餅にチョコ？今まで見たことない味だな。」

（試食を終えたバイヤーが感心した様子で話し始める。）

アメリカのバイヤー

「これ、アメリカで流行りそうだね。特に若い世代に受けそうだ。」

（汐が満足げにうなずく。）

汐

「そうだろう？これから、私たちの煎餅が世界を制覇するんだ！」

シーン 4：未来へ向かって

（汐製菓のオフィスで、次の商品の構想を練る汐。塩田と藻塩もその場にいる。）

汐

「煎餅パフェの次に何を作るか、考えたか？」

塩田

「社長、それに関しては、まだ構想を練っているところです。でも、確実にまた大きな挑戦が必要ですよね。」

藻塩

「次は、何かもっと**斬新**で**未来的**なものにしましょう！」

汐

（深くうなずいて）

「そうだな。私たちが作るのは、**未来の菓子**だ。人々がまだ見たことのない、感じたことのない、新しい驚きと感動を与える菓子を！」

（汐は決意を新たにし、未来を見据えた目で前を向く。）

汐

「さあ、次の革命を起こすために、動き出すぞ！」

（その言葉に、塩田と藻塩も力強く頷く。カメラが少し引いていくと、汐製菓のロゴが大きく映し出され、明るい未来に向かって進み続ける汐たちの姿が浮かび上がる。）

エピローグ：未来をつかみ取る者たち

（時が流れ、汐製菓が世界的に有名なブランドへと成長していく様子が描かれる。世界各国の食品展示会やメディアに取り上げられ、汐製菓の煎餅や新商品の試作品が次々とヒットを記録する。）

ナレーション

「**汐製菓**は、世界を驚かせる新たなチョコ菓子革命を起こした。それは一つの挑戦に過ぎなかったが、今やその影響は世界中に広がり、**未来のお菓子**として、新たな歴史を刻み続けている。」

（最後に、汐が笑顔で歩くシーンが映し出される。背景には未来的な製造工場が広がり、新たな商品が次々と誕生している。）

終わり

全体構成（目標：80分超）

1. **第一幕：奇想天外な始まり**（15分）
2. **第二幕：試食会での波乱**（25分）
3. **第三幕：国際市場での挑戦**（30分）
4. **第四幕：成功と次への布石**（15分）

詳細な尺割り

第一幕：奇想天外な始まり（15分）

1. **シーン1：社長室での爆弾発言**（7分）
   - 汐が新商品の発案を発表。塩田が困惑しながらも試作に動く。

- セリフでテンポよく展開。汐の個性をアピールするコメディ要素中心。

2. **シーン2：試作室での悪戦苦闘**（8分）
  - 藻塩が試作を進めるが失敗続き。汐が情熱で乗り切ろうとする。
  - 最初の試作品が完成するも、まだ不完全。

第二幕：試食会での波乱（25分）

1. **シーン1：国内試食会**（15分）
  - 主要な試食者（佐藤よね、山田拓也、綾野さや）の登場と食レポ。
  - 最初は賛否両論だが、徐々に好意的な反応が増える流れを描く。
  - 各キャラクターの台詞を増やし、詳細なリアクションで尺を調整。
2. **シーン2：改良と新たな挑戦**（10分）
  - 国内での反応を受け、改良を重ね

る過程を描写。塩田と藻塩が奮闘する。

- 汐が次なる国際市場への挑戦を宣言して幕を閉じる。

第三幕：国際市場での挑戦（30分）

1. **シーン1：海外展示会での不評**（12分）
   - フランス、アメリカ、中国の3人の反応を中心に描写。最初は否定的な意見ばかり。
   - 汐が熱弁を振るうシーンをクライマックスに。彼のキャラクターがさらに際立つ。
2. **シーン2：反応の変化と受容**（18分）
   - 熱弁の後、再試食が始まり、少しずつ好意的な反応が広がる様子を丁寧に描く。
   - フランスの評論家、アメリカのバイヤ

ー、中国の経営者がそれぞれ納得する場面で盛り上げる。

第四幕：成功と次への布石（15分）

1. **シーン1：社内祝賀会**（10分）
  - 成功を祝う社員たちと汐・塩田のやり取り。心温まるエピソードで物語を収束させる。
2. **シーン2：次なる挑戦**（5分）
  - 汐が次なる挑戦として「カレー味のチョコ煎餅」を発案し、全員が呆れるコミカルなエンディング。

想定される演出時間

- 各シーンには台詞以外の間（リアクション、表情、間の取り方）を含め、時間配分を調整。

- 特に第三幕の国際市場での挑戦が全体のクライマックスとなり、熱弁シーンに感情移入できるよう時間をかけて描写。